

EX（絶滅）

食肉目 イヌ科

エゾオオカミ

Canis lupus hattai Kishida, 1931

英名：Ezo wolf

カテゴリー判定基準：③

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1998	2007
Ex	EX	EX

オオカミ（*Canis lupus*）の亜種で北海道に生息していたが、駆除目的の過剰捕獲により、1900年頃を境に激減し、絶滅した。

The Ezo wolf (*Canis lupus hattai*) was distributed in Hokkaido, but was extirpated about 1900 as a result of a predator control campaign to protect domestic animals.

基礎情報

■**形態** ニホンオオカミ（*C. l. hodophilax*）に比較して大型で、頭胴長はオス129cm、メス120cm、尾長オス40cm、メス27cm、耳長オス11.5cm、メス10.5cm。頭骨全長は232.4～275.8mm。オオカミの亜種とされるが、亜種の特徴や分布域が不明確であるなど、分類学的検討は十分でない。

■**分布域** 種としてはユーラシアと北アメリカに広く分布する。本亜種は北海道に生息していた。また、サハリン（20世紀初頭以来生息情報がない）と千島列島（確実な情報がない）にも分布していたとされる。

■**生息環境** 本種は森林から草原まで幅広い環境に適応して生息するが、本亜種の生息環境に関しては情報がない。

■**生活史** 群れで生活し、おもにエゾシカ（*Cervus nippon yessoensis*）を捕食していたと思われる。高次捕食者であるため、生息密度も低く、個体群維持には広大な生息域が必要であったと考えられる。

絶滅に至った経緯とその要因

放牧馬に対する食害を防ぐために、北海道開拓使（道庁の前身）は、1876（明治10）年から賞金を出してオオカミの駆除を奨励した。開拓以前は北海道の全域に生息していたと思われるが、駆除が進められた時代には分布が偏ってきた。たとえば1880（明治14）年には牧場の多い

日高、根室地方で多数捕獲されたが、1885（明治19）年になると人口の多い石狩、十勝、渡島地方でおもに捕獲されている。これは、主要な餌であるシカが乱獲などによって減ったことから家畜を襲うようになり、さらに人家周辺で小家畜、残飯などを餌とするようになったためと考えられている。駆除対策の結果、オオカミの個体数は急減し、被害がなくなったため、1887（明治21）年に奨励策は廃止された。1876年からのわずか12年間で本制度により1,539頭が捕獲された。これとは別に官庁による駆除も行われていることから、この期間の全捕獲数は2,000～3,000頭と推定され、1888（明治22年）以降はほぼ絶滅状態であったと思われる。その後、1896年（明治29年）に函館の毛皮商がオオカミの毛皮数枚を扱ったという記録がある。

特記事項

現存する本亜種の標本は、北海道大学農学部附属博物館の本剥製雌雄各2頭（模式標本を含む）および頭骨雌雄各2点ほか性不明1点、アイヌ民俗資料館（静内町）にオスの頭骨1点、大英自然史博物館にオスの頭骨1点が知られるだけである。

参考文献

今泉吉典, 1960. 原色日本哺乳類図鑑. 保育社, 大阪. 196pp.
犬飼哲夫, 1933. 北海道産狼とその滅亡経路. 動物及植物, 1(8): 11-18.
犬飼哲夫, 1975. 北方動物誌. 北苑社, 札幌. 152pp.
Kishida, K., 1931. Notes on the Yesso wolf. Lansania, 3: 72-75.
小原巖, 1984. 絶滅した日本のオオカミ. 動物と自然, 14(11): 2-6.

執筆者：石井信夫（東京女子大学）